

山口大学研究プロジェクト
コロナ危機と時間学 ～新型コロナウイルス感染症と私たちの過去・現在・未来～

研究成果報告書

主研究者	浜島清史	所属	東アジア研究科
共同研究者			
研究課題名			
コロナ禍における社会制度・組織に関する調査研究			
研究内容と成果の概要			
<p>当日、パワーポイントを用意するが、以下の概要に関連する。</p> <p>地方における取組事例として、山口県と山口大学(以下、山大)の例をみておこう。23年3月国際シンポジウムにおいて、山大学長の谷澤幸生氏が開会の挨拶で、山口における取り組みに言及している。慶応義塾大学の印南教授は、全国紙日本経済新聞の全国紙版「経済教室」において、「先進的な取り組み」として山口県の事例を紹介している。それによると当初はできてきなかったクラウド型システムが第5波(21年7～11月)では開発され、感染者数の把握(保健所)から治療・入院場所の選定、そして患者の療養施設への移動に至るまで、医師・保健師・介護施設関係者・行政関係者が情報を共有できるようになったと賛辞している。実はこの内容は、山大附属病院が主体として行なってきたことなのであり、編者主催の2022年3月のシンポジウム時に山大附属病院の鶴田良之・松永和人氏・山口県庁健康福祉部新型コロナウイルス対策室(以下、山口県庁。氏名は敢えて出さない)らによって配信されたことなのである。それが YCISS である。当時、編者からすれば、山口県においては、コロナ対策の発信が目立たなく、見えにくいものであった。山梨大学の島田学長からも県民に知られているのかという疑義が呈された。恐らく多くの山口県民がいまだにそう思っているのではないか。それともう一つ、山口大学附属病院の特徴的な取り組みとして YUMECO が挙げられる。山口県におけるコロナ対策を体系的に論ずることは、重点医療機関・協力医療機関・保健所・後方支援病院等全てを網羅するべきであり、その中で増減床を実施し、上り下り搬送状況まで把握することである。</p> <p>YCISS (Yamaguchi COVID-19 Information Sharing System)</p> <p>まず YCISS からであるが、2022年3月シンポジウムから鶴田良之氏と山口県庁担当者の方の発言を基に、それに日経記事を加えて纏めておこう。山口県では新型コロナ患者の入院調整に関連する県下の全ての保健所(支所含む計9施設)、重点医療機関(7施設)、入院協力医療機関(28施設)を対象に導入されている(日経2021年8月17日)。医療提供体制は、都道府県の所管であり、山口県では山口大学と連携してやっている。陽性患者が発生すると、各保健所へ連絡が行き、そこで症状の詳細や移送時間の調整の連絡が行なわれる。それを県調整本部で一括管理して、医療機関へ連絡して受け入れを決定している、ここがポイントであろう。</p> <p>山口県では、毎日のように病床使用率、重症が何人、中等症1が何人、中等症2が何人と、毎日マスコミから報道されている。全部 YCISS のデータである。症状の程度も毎日その都度定期的にみている。</p>			

当初、山口県では第4波アルファ株までは全国的にも患者数が多くなかったこともあり、紙ベースで保健所が集計してやりとりをしていた。保健所からくる患者情報を県の調整本部の方で医療監査してもらえるかいちいちやっていて、「本当に地獄のような日々」だったという(山口県庁)。山口県庁健康福祉部新型コロナウイルス対策室が対応し、逼迫状況に応じて応援が入る。YCISSは患者情報共有できるシステムを県として開発して、そこから各病院、それから保健所、宿泊療養、と共有をしている。第5波までは宿泊と入院患者だったが、第6波、オミクロン株により22年1月に米軍基地のある岩国市で感染爆発が起こった頃、自宅療養へと方針転換したので、YCISSも爆発的に増えていた自宅療養者にまで広げた。患者情報を簡潔化して全ての関連する医療機関へ送り、そういった情報を瞬時に関係者が共有でき円滑化するようになった。しかしながら、患者の個人情報があり、それを守ることで見え難さに繋がっているようである。医療機関においては、各自の医療機関の患者しかみることはできない。瞬時に個人情報を関係者の間で共有し、症状程度により、当院で引き受ける、難度の高い場合は山大附属病院で対応するということになるが、情報管理をオープンできないところもある。とはいえ、より県民の方にわかりやすくアピールするというのは22年3月講演会におけるディスカッションによって、県として一つの課題であると受け止めたので、一層、理解促進を県としてやっていきたいということであった。

このように、YCISSは全国的にも先進的な取り組みとして挙げられ、症状別役割分担状況と上下の連携、すなわち感染者数の把握(保健所)から治療・入院場所の選定そして患者の療養施設への移動に至る連携を、医療・行政関係者がリアルタイムで情報共有できるシステム・制度である。

YUMECO (Yamaguchi University Medical COVID-19)

省略

研究進捗状況・研究成果の公表状況等

論文、学会等発表、実データの利用状況、研究の有用性を広めるための活動など

山口大学大学院東アジア研究科(2024)『東アジアのパンデミック』(刊行予定)* 出版社は現時点では非公表

その他特記事項